

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(南家)		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700476&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との交流の元に、高齢者福祉に対する配慮が地域のどこに行っても当然のように受けられ、認知症に対しても理解を深められるよう地域に開かれたサービス、又、地域の一部となれるよう活動している。具体的に、ボランティア活動の提供の場として、月一回ボランティアによる映画観賞会、音楽療法、地元の小中校生のボランティアの受け入れ、高校生のアニマルセラピーを実施。その他、子育て支援事業の場を提供、かつ、合同行事を企画し、地域の親子と入居者との交流も積極的に図っている。そして、自治会や民生委員の皆様の御協力で地域行事に参加させて頂き、入居者が積極的に地域に参加できるよう機会を作ることに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員及び地域包括支援センターの努力により、地域や住民との関係は、年を追うごとに良好となり、ホームには子育てサロンも出来上がり、子どもと利用者が自然に触れ合う場となっている。地域に開かれた福祉拠点として、地元のみならず、行政からも高い期待が寄せられ、地域全体の医療と福祉を支えている。地元の祭りの手伝いなどにも職員が積極的に参加し、事業所と地域交流の結びつきに一役かっている。利用者も、地域の人々と親しくふれあい、交流しながら満足と安心のある日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(南家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し、各ユニットにも理念を掲示し、常に遂行できるようにしている。	理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供する」を掲げている。日々の中で、理念に沿っているかどうかを、職員間で確認し合い共有している。家庭的な環境の中で、一人ひとりの思いを優先させた、楽しい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小中高生のボランティアの受け入れ、子育て支援事業の場の提供等、子供が訪問しやすい場を作っている。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、お祭り等、地域活動に参加し交流の機会を持っている。	自治会に加入し、事業所の催しを回覧板などで案内し、地元の人々を招いて交流している。老人会の人や子ども達が日常的に訪れ、大正琴や民謡のボランティアなど、幅広く地域との交流を行っている。小中高生の福祉体験も受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の各種行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行なっている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動や各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。	会議は、行政や地域関係者、家族が参加し、2ヶ月ごとに開催している。活動報告の意見を討議したり、地域活動への取り組み、職員の力量について話している。会議での意見は、その都度、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。	病院が母体であり、様々な施設を併設していることから、行政とは種々の相談ができる関係ができています。行政から研修の依頼などもあり、地域全体の医療と福祉を支える要として、頼られる存在となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については最低限してはいけないルールだと把握しており、行なわれたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。	毎年、身体拘束についての研修で学び、拘束をしないケアを行っている。車椅子の利用者には、車椅子のままで過ごすのではなく、希望に沿ってソファや椅子に座ってもらうなど、きめ細かい対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネージャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照、料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。その他、苦情受付BOXの設置や顧客満足度調査を定期的実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、家族の来所時こちらから声を掛けやすい雰囲気作りを、面会の少ない家族には定期的に電話にて報告している。	定期的な、家族アンケートをとり、対応すべき課題について、迅速に職員間で話し合い、その結果は公開している。おやつに関する意見や散歩の希望などが家族からあり、日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からは、朝のトイレ誘導での時間配分を考慮し、早番が行うように変更するなどの、提案がある。意見・提案等は、そのまま、日々のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間サービス、反省を行い、半旗に一度、管理者、計画作成担当者との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み棟を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームや隣接の認知症対応型の施設との共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作り、自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館、理美容等)を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者で過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いに理解を深め関係を築いている。又、子育て支援事業と連携し、交流する機会を作ることで、利用者が教える立場になる場を提供している。スタッフも同様に生活の場で様々な知恵を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙等で日頃の様子をご家族に報告することで、本人の現状を知って頂いている。またケアプランの作成時には要望を聞き、今後のケアの方針と一緒に考える機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みのある場所に寄ったりして、思い出を共有できるよう努めた。面会者へは本人とゆっくりと話ができるよう、居室を利用して頂くなどの配慮に努めた。	面会は、元職場の同僚や親族・知人がホームを訪れ、状況や希望に合わせて、居室でゆっくり過ごしてもらっている。個別の買い物に行き、菓子など、懐かしい味を楽しむこともあり、ホームを利用しても、昔からの関係をそのまま保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者同士の関係を把握した上で、歌や色塗りなど趣味の合う人同士の交流を通して良い関係作りが出来るよう、職員が間に入り、利用者同士をつなぐ架け橋となるよう、支援に努めている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常会話や何気ない仕草、センター方式から知り得た情報から把握に努めている。意思疎通が困難な方の場合、ご家族にこれまでの生活の様子や状況をお聞きすることで、本人の気持ちになり考えるよう努めている。	個別に気づきノートを作成し、日々ケアの中で気づいた点を記載し、職員間で把握し、利用者のケアに活かしている。本の好きな利用者には、移動図書館に職員が同行して一緒に本を選ぶなど、本人の思いを尊重し、その人らしい暮らしに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に昔の様子をお聞きしたり、本人との日常会話で聞いて把握につとめている。又、入居時の情報提供を基に、本人と交流を持つことで、会話から昔の生活歴等を引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を個々に記録することで、職員全員が少しの変化にも気づけるよう、現状の把握に努めている。又、掃除などの家事手伝いや歌などの余暇活動の場を通じて、個々の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から意見をお聞きし、その後、毎月のユニット内の会議でケアのあり方について話し合っている。それらを介護計画作成に活かし、反映させている。	前回より改善され、日々の現場で、気づきノートが作成された。3ヶ月に1回の見直しやモニタリングに加え、毎月、柔軟に職員間でふり返りを行い、利用者の会話や得意とする手伝いに関する発見を介護計画に加えている。	定期的な見直しが行われているが、毎月行っているケア会議の記録を、職員相互に確認し、課題改善の視点を広げながら、さらなる取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記録することで、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画作成、見直しの際に、担当者が活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に病院等の連携施設があるため、心身の状況に合わせて柔軟なサービスが受けられるよう関係機関とも協力して取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。	母体が医療法人であるため、ほとんどの利用者は母体の病院をかかりつけ医としている。月2回の往診と歯科往診も行っており、利用者の体調には、万全を期している。皮膚科などは、家族が受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による週3回の訪問や近隣の病院を通じて、看護職との連携・相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。	利用者の加齢に伴い、重度化になることは予想しているが、基本的に同法人の他施設へ移ってもらう方針である。終末期は、家族の協力を前提に、かかりつけ医の指示の元で慎重に進めている。家族の強い希望に応じ、看取りを行う体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の災害時のマニュアルを作成。又、法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。その他、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加。近隣施設や地域住民にも訓練に参加を呼び掛けし、地域の訓練にも参加している。	年2回、消防署の立会いの下で訓練を実施している。また、地域内の住民合同の訓練にも参加している。災害時に備え、消火器の使い方など実施している。さらに、大震災に備え、災害時対応マニュアルを作成している。	大災害時には、交通手段や通信手段が機能しないことが予測される。自助による対策について、引き続き話し合いを重ねられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、尊敬の念を持って言葉掛けや対応をしている。プライバシーをしっかりと守り対応している。	その人その人の好みを把握し、入室時のノックや入浴時の配慮だけに留まらず、利用者の衣服のたたみ方や整頓の際も、利用者の要望を聞き、尊厳に配慮する心遣いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。その際に、希望を聞く等、本人の状態に合わせた方法で対応することで、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方を会話の中から聞いたりすることで、本人の希望を把握し、その人らしい生活が送れるよう支援している。レク活動を行う際には必ずお誘いして、参加の有無を自己決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族や本人の希望を尊重している。本人から好みを聞いたり、カルテ等から情報を得たり、又、職員と一緒に見て決めてもらうように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を実施。毎日一緒に食事をしたり会話の中から嗜好を把握している。食事の準備や片付けなど個々の有する能力に合わせ職員と一緒に行うことで、社会の一員としての役割を持てる場の提供にも努めている。	毎日の食事は、職員が調理している。ホームの畑の収穫物や、住民が届けてくれた野菜などで、四季が感じられるメニューとなっている。利用者は能力や好みにより、テーブル拭きや野菜の下準備などを行い、職員も一緒に見守りながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白・黒・赤・黄色・緑の食べ物を取り入れること)を実践し、栄養バランスが一目でわかるよう毎日記入している。又、個々の体調や状態に合わせて、食事形態を工夫し、バランス良く摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、個々に記録している。必要な利用者には介助や声かけを行い支援している。また入れ歯等、管理出来ない利用者については職員が預かり、ポリドントを入れて管理している。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。介助が必要な利用者は時間を見て定期的にトイレ誘導や声かけを行うことで、トイレでの排泄習慣がつくよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、夜間も含め、トイレへの誘導を行っている。おむつから紙パンツへ、紙パンツから布へと、徐々に移行するよう努力を行い、自力で排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄チェック表を作成し、毎日確認している。又、普段から水分を多く摂れるよう促したり、便秘時は牛乳やバナナ等摂ったり、腹部マッサージを行うなどの対応を行うことで自然排便につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調・体力等を考慮し、一日置きで週3回実施。ゆっくり入りたい方には本人の希望を聞き、午後から入浴して頂くなど、本人のペースで楽しんで頂けるよう、入る順番や時間帯に配慮した支援を実施している。	入浴は週3回を基本とし、利用者の希望の時間帯に入れるよう、対応している。毎回、一人ひとり湯を入れ替え、新しい湯で気持ち良く入浴ができ、利用者の楽しみの一つとなっている。ゆず湯や菖蒲湯など、季節を感じる工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・体力を考慮し、午後から休息の時間を設けている。フロア、居室内の照明や温度等を調節することで、安心出来る生活空間作りに努めている。不眠者には日中の生活を見直すことで、夜間の睡眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに処方箋を綴じており、必要に応じて確認したり、症状の変化に応じて医師や看護師にも確認している。服薬が自立出来ない方には、薬を手渡したり口に入れるなど本人に合った支援を行っている。又、服薬時は必ず目視確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロア・居室の掃除、洗濯たたみや皿拭き、配膳、下膳、裁縫や歌など個々の生活歴や能力に合わせた活動の機会を持って頂くことで、生活の中に楽しみや役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩に出かけたり、個人の希望に応じて近所に買い物に行くなど、定期的に外に出る機会を持てるよう支援している。又、ご家族と外出の機会が持てるようにも支援している。	ホーム周辺を日常的に散歩している。弁当を持って、岐阜公園などの近場にも出かけている。外食は、年に4回、行事計画に沿って行っている。遠方の外出を希望する利用者には、家族の協力を依頼し、希望を叶えるようにしている。	

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意のもと、自己管理が出来る方には個人で所持して頂いている。ご家族から依頼があった場合や自己管理が困難な場合は本人同意のもと職員が管理している。希望があれば本人の希望のものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はご家族から本人に取り次ぎを行っている。また本人から希望があれば使用して頂いている。手紙は全て本人に手渡しし、希望に応じて、やりとりもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、温度等は利用者の体調や要望に応じて対応している。フロアには季節の花を飾ったり、職員と利用者が一緒に作った小物や季節感のあるカレンダーを毎月制作・掲示することで、季節感を採り入れた生活感のある居心地の良い空間作りに努めている。	1階と2階に3ユニットがあり、台所に面した居間には、利用者と職員が作った季節の絵手紙や和紙絵、置物等を飾っている。居間からは、居室を一目で見渡せ、洗面所やトイレへの動線も分かり易い。広い玄関は、大きな靴箱を設置し、和風旅館のような趣がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや、和室、玄関先のベンチなど、気の合った利用者同士や、時に独りで過ごせるような場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が今まで使っていた物(家具など)をお持ち頂くよう説明している。本人が居心地良く暮らせるよう家具の配置にも配慮している。また必要に応じてご家族に依頼し、必要物品をお持ち頂き、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室の窓には、和の空間を意識した障子がつけられ、落ちついた雰囲気となっている。利用者は、馴染みのテーブルや椅子などの家具や洋服を持ち込み、自分好みの間取りにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉に個々に合わせた目印を付けわかりやすくし、トイレ扉に音の鳴る物を付け利用者が入る際職員が気づけるようにし、安全な使用に配慮する。又、廊下や浴室に手すりを設置し、安全かつ出来る限り残存機能を活かした支援を実施。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(上の家)		
所在地	岐阜県本巢郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(上の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し、各ユニットにも理念を掲示し、常に遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小中高生のボランティア受け入れ、子育て支援事業の場の提供等、子供が訪問しやすい場を作っている。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、お祭り等、地域活動に参加し交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の各種行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行っている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動や各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。その他、苦情受付BOXの設置や顧客満足度調査を定期的実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、家族の来所時こちらから声を掛け話ができる雰囲気作りを、面会の少ない家族には定期的に電話にて状況報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームや隣接の認知症対応型の施設との共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作り、自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館、理美容等)を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者で過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いの理解を深め関係を築いている。又、子育て支援事業と協力しふれあう機会を日常的に設け、子供と交流を持つ中で利用者が教える立場になる機会を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をご家族に報告することで本人の現状を知って頂き、今後の方針を一緒に考えている。都合により面会が困難なご家族には、月に一回は電話及び手紙を出し、近況報告を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に寄ったり、ご友人等面会者への心配りを行うことで、関係が途切れることのないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や、余暇活動を通じて趣味の合う仲間作りを支援することで、より良い関係作りが出来るような場所や機会を提供し支援している。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式からの情報や、日々の眩きやふとした仕草等から把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族に協力を依頼して、これまでの生活歴等状況をお聞きし、本人の気持ちになり考えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常会話や、ご家族の面会時に昔の話を聞いて把握に努めている。又、本人が暮らしていた地域の特徴を掴み、会話の中で暮らしぶりを引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の日々の過ごし方や心身状況を記録に残し、職員全員が現状の把握が出来るよう努めている。又、家事等のお手伝いやレク活動等を通じて、有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に意見を求め、その後ユニット内でのカンファレンスにてケアのあり方について話合っている。医学的見解が必要な際は、担当医や看護師に相談し、介護計画作成にいかしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録をカルテへ記入し、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画見直しの際にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた支援を心掛けている。近隣に病院等連携施設があり、利用者の身心の状況等に合せて柔軟なサービスに努めるようにしている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による週3回の訪問や近隣の病院を通じて、看護職との連携・相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の災害時のマニュアルを作成。又、法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。その他、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加。近隣施設や地域住民にも訓練に参加を呼び掛けし、地域の訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や有する能力、生活リズム等を把握し、日頃より尊敬の念を持って対応している。利用者への配慮がみられない言葉掛けをしている場合は、個々に尊厳を持った対応をするよう指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より担当者を中心にコミュニケーションを図っている。又、意思疎通が困難な方に対しては、本人の健康状態や日頃の些細な言動等から思いを汲み取り、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話や日常の行動の中から、本人のペースや希望を把握し、出来る限り本人の希望に沿った一日を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては本人の希望を尊重している。意思決定が困難な方に対しては、家族から情報を提供して頂き、本人や家族の希望に合わせ、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を実施。日々、利用者と共に食事をして会話の中から好みを聞く。又、準備や片付け(台拭き、配膳、下準備、皿洗い、皿拭き等)を個々の能力に合わせ共に行なう。その他、自己摂取を基本とし、本人のペースを守り、食事に楽しみを持てるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践し、体調に合わせた食事形態を工夫している。又、食事・水分摂取量を記録して、一日を通じて栄養が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。必要な利用者には声かけや介助を行い支援する。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。介助が必要な方は、定期的にトイレ誘導を行なうことにより排泄を習慣づけるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便チェック表を作成し、毎日確認している。又、普段から食事形態の工夫や水分摂取に努めている。便秘時は、医師や看護師の指示のもと、腹部マッサージや食物繊維を摂る等の対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調・体力等を考慮し、一日おきの週3回実施。入浴時間は午前と午後で調整している。入浴の順番は、その都度利用者の要望や体調に合わせ実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度等を調整し、ユニット内の雰囲気落ち着かせるよう対応している。又、不眠者には日中の生活を見直すことで、スムーズな睡眠を促すよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じており、必要に応じて確認している。服薬が自立できない方には、薬を手渡しし、服薬を目視確認する等、本人に合わせた支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロア・居室の掃除、新聞たたみや洗濯たたみ、食事作り、皿拭き、雑巾縫い、観葉植物の水やり等、個々の趣味や能力に合わせた役割を持って頂き、生活に張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り利用者の希望に沿うような配慮をし、希望に合わせて、近所の買い物や散歩等、定期的に外出の機会を持っている。又、ご家族やご友人との外出の機会も持てるよう支援し、戸外へ出かける機会を多く持てるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から依頼があった場合や自己管理が困難な場合は本人の同意のもと職員が管理するが、買い物時は本人にお金を渡し、支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はご家族から本人に取り次ぎを行っている。本人から希望があれば電話を使用して頂いている。又、届いた手紙は本人に手渡しし、やり取りも本人の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、温度等は利用者の体調や要望に配慮。又、車椅子利用者も生活しやすいよう十分な広さを確保した家具の配置を工夫。又、馴染みの物や観葉植物、季節に合わせた小物等を配置し、季節感を採り入れた生活感のある落ち着いた雰囲気を作り、居心地良く過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせ、時には独りになれる場所として、ソファー、和室、玄関先のベンチ、ベランダ等少人数で集まるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人や家族に今まで使っていた物(布団、タンス、椅子等)をお持ち頂くよう説明している。入居後は必要に応じて家族に協力を依頼し、必要物品を持ち込んで頂く。又、家具の配置も本人の希望に沿った形にし、本人が安心かつ居心地良く暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉に個々に合わせた目印を付けわかりやすくし、トイレ扉に音の鳴る物を付け利用者が入る際職員が気づけるようにし、安全な使用に配慮する。又、廊下や浴室に手すりを設置し、安全かつ出来る限り残存機能を活かした支援を実施。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(北の家)		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(北の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し、各ユニットにも理念を掲示し、常に遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小中高生のボランティア受け入れ、子育て支援事業の場の提供等、子供が訪問しやすい場を作っている。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、お祭り等、地域活動に参加し交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の各種行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行っている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動や各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。その他、苦情受付BOXの設置や顧客満足度調査を定期的実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、家族の来所時こちらから声を掛け話ができる雰囲気作りを、面会の少ない家族には定期的に電話にて状況報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームや隣接の認知症対応型の施設との共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作り、自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館、理美容等)を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いの理解を深め関係を築いている。又、子育て支援事業と協力しふれあう機会を日常的に設け、子供と交流を持つ中で利用者が教える立場になる機会を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、手紙にて、日頃の様子をご家族に報告し、本人の現状を知って頂いている。面会が困難な家族には月1回電話にて報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所に寄ったり、思い出を共有できるよう努めた。面会時には居室にてゆっくり過ごして頂けるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者同士の関係を把握し、席の配置を行っている。又、コミュニケーションの場を多く持って頂けるよう、職員が間に入りより良い関係づくりが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式からの情報や本人との会話や仕草等から情報把握に努めている。意思疎通が困難な方は、ご家族にこれまでの状況、生活歴等をお聞きし、本人の気持ちになり考えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との面会時に、昔の話を聞き把握に努めている。又、本人との日常会話から昔の生活歴等を引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に日々の様子を記録することで、職員全員が現状の把握が出来るよう努めている。又、家事、手伝いや趣味、レク活動を通じて個々の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意見を求め、その後ユニット内のカンファレンスにてケアのあり方について話し合い、介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに日々の個別記録を記入し、全職員が情報を共有している。その情報を、介護計画見直しの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた、支援やサービスを心掛けている。又、近隣に病院等連帯施設があり、利用者の心身の状況等に合わせた柔軟なサービスに努めるようにしている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による週3回の訪問や近隣の病院を通じて、看護職との連携・相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の災害時のマニュアルを作成。又、法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。その他、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加。近隣施設や地域住民にも訓練に参加を呼び掛けし、地域の訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊敬の念を持って対応している。本人のプライバシーを守り、対応、声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、コミュニケーションを図り本人の意思や希望等を把握できるよう心掛け、本人の状態に合わせた対応をすることで自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話、行動の中から本人のペースや希望を把握し、出来る限り本人の希望に沿った一日を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては、本人からの希望を聞き尊重している。意思決定が困難な方には、家族からの情報を聞き、その方に合った身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を実施。毎日一緒に食事をし、会話の中から好みを把握している。又、個々の有する能力に合わせて、準備や片付け等行って頂けるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践し、栄養バランスが分かるよう毎日記録している。又、体調や状態に合わせて食事形態を工夫し、食事を楽しんで頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。必要な利用者には介助を行い、入れ歯等の管理が出来ない方には入れ歯を預かり、洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を個別に作成し、パターンの把握を行っている。介助が必要な方には定期的にトイレ誘導を行うことによって、排泄習慣がつくよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄チェック表を作成し、把握している。又、普段から水分を多く摂って頂くよう努めている。便秘時には腹部マッサージ、食事の内容の工夫等を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施。入浴の順番や時間は、出来る限り本人の希望にそって支援できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度等を調整し、居室、ユニット内の雰囲気や落ち着いたように対応している。本人の体調に合わせて居室にて昼寝するよう勧め、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じており、必要に応じて確認している。服薬が出来ない方には、手渡しや声掛けを行い、本人に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝い(掃除や食事の片づけ、雑巾縫いや芋の皮むき)、趣味の活動(カラオケ、オセロ、将棋、色塗り)等個々の能力に合わせた役割、楽しみを持って頂き、張り合いが持てる、生活が出来るよう支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際は、出来る限り本人の希望に沿うよう努めている。希望に合わせて食事や鑑賞に出かけ、定期的に外出している。又、ご家族の方とも外出の機会を持てるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア北方」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持している方には管理を行って頂いている。ご家族からの希望、自己管理が困難な場合は本人の同意のもと、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば電話を使用して頂いている。又、届いた手紙は本人に手渡しし、やり取りも行って頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、温度等は利用者の体調や要望に合わせて配慮している。又、馴染みの物や季節の物を取り入れて、居心地良く過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや外のベンチ、和室等のペースを設け、気の合った利用者同士、独りで過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は必要に応じて家族に協力を依頼し、必要物品を持ちこんで頂いている。又、本人の希望に沿った家具や小物等を配慮し、安心して暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉に個々に合わせた目印を付けわかりやすくし、トイレ扉に音の鳴る物を付け利用者が入る際職員が気づけるようにし、安全な使用に配慮する。又、廊下や浴室に手すりを設置し、安全かつ出来る限り残存機能を活かした支援を実施。		